

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月17日(水)

会場:三次コミュニティセンター

参加者:59人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>日本妖怪博物館について、歴みちを活かす取組を進めたいと言われ、感謝している。建物ができただけではにぎわいは再生しない。周辺に行き来できる流れをつくるのが大切と考える。三次町は空き家が多く、老朽化で危険な家屋も多い。側を通るのも危険な空き家もあり、市道が通行止めになっているところもある。これから町を周遊してもらうにあたり、どのような解決策を考えているか。地域だけでは解決できない。</p>	<p>・太歳町の空き家の経過については、建物の所有者と土地の所有者が異なっている。建物の所有者は既に死亡し、相続関係者がかなりの数に上っており、建物自体の存在を知らない関係者もいることから、土地所有者に解体の依頼をしている。土地所有者が建物を解体することに関して、弁護士に相談したところ、建物関係者に土地所有者が解体することの承諾を求める必要があるとのことで、関係者に文書を発送した。土地所有者は、解体の意思は持っており、三次市内の解体業者に見積りを依頼した。しかし、残存物の処分費用がかなり高額で、金額の折り合いがつかなかったため、再度広島市内の解体業者に依頼をしたところ、「7月豪雨災害の対応で手一杯であるため、もう少し待ってほしい。」と言われている旨の回答があった。三次市としても、日本妖怪博物館の開館も迫っているため、今年度内には解決したいと考えている。空き家全般については、平成28年度の実態調査で、約1,400戸の空き家を確認している。これらの空き家を老朽度によってランク分けし、老朽度の高いものから追跡調査を実施し、半年または3か月のスパンで巡視し、適正管理や解体等の依頼をし、反応のない方には、指導書・勧告書等も出している。そうした取組で解体された建物もある。行政代執行については、未収債権になる可能性もある。放っておけば市が解体してくれる、ということになっていけないうので苦慮しているところである。</p>	
<p>築100年の家に住んでいる。近所に空き家が多く、向かいの空き家は崩れている。国道375号沿いには全部空き家の通りがある。持ち主も、解体費用がかかるからどうしようもないと言っていた。歩道を整備していただいたが、空き家の増築された部分が危ない、というところがある。</p>	<p>・行政代執行については、どの自治体も躊躇している状況だが、怪我人が出たり、死亡事故になってはいけない。市議会にも諮りながら、いかに安全に解決できるか考えたい。</p>	
<p>福岡元三次市長の頃から、少子高齢化が大きな問題になるので、三次町の再開発を考えなければならぬと言われていた。三次町の再開発について、どのように考えられているか。今度できる日本妖怪博物館については、広島から来てもらう際、電車よりバスに乗ってもらえれば良いと思う。市から、バスの便数を増やすことに取り組んでもらえないか。広島電鉄のバスに乗ることがあるが、平日は行きが14便、帰りが11便であるが、土日・祝日は行きが8便、帰りが7便に減る。広島電鉄は撤退するのではないかと漏れ聞いた。便数が減っていくことが心配である。</p>	<p>・広島電鉄の撤退については聞いていない。撤退はないと思っている。日本妖怪博物館が開館するにあたり、バスの便数は増やさなければならないと思っている。ただ、全体的にバス会社は縮小傾向になっており、運転手の確保が難しい状況である。備北バスを中心に、国の支援を受け、ダイヤを確保している。三次市としては、地域交通の確保は重点的な施策のひとつとして進めている。市民の皆さんにも、しっかりと利用していただき、残してほしい。</p> <p>・日本妖怪博物館の駐車場内にバス停を設ける予定である。広島電鉄を含めて備北交通に窓口となっていたり、バス停名を博物館の名前に変更し、バスの行き先表示も「三次小学校」から「三次ものけミュージアム」として延伸していただくよう協議中である。広島市からの集客にもつながると考えているので、引き続きしっかりと取り組んでいく。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月17日(水)

会場:三次コミュニティセンター

参加者:59人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>災害時の避難所開設について、自主防災組織の担当だが、私のところには連絡が何も来なかった。また、地域のことをよく知らない職員が避難所の担当になっていた。さらに、三次中学校が避難所として開設された時もあるが、中学校体育館にはトイレが1つしかないという問題がある。避難場所については、旧三次文化会館が無くなる時に、次は三次中学校へ避難することになると言われ、三次中学校がもし浸水したときは、三次市民ホールきりりへと言われたが、今回は三次市民ホールきりりが浸かった。避難場所について、しっかりと打ち合わせをしてほしい。きりり周辺は、畠敷地区の山の谷から流れる多量の水で浸水する。排水ポンプ設備をもう一つ作り、さらに馬洗川の中にある木を切って流れをよくしなければならぬと思う。</p>	<p>・今回は、50年に一度の災害であった。避難所の開設についても、市は37か所、職員100名以上を配置した。各地域に詳しい職員を配置できれば一番良いが、なかなかできなかったことは今回の反省点であり、職員の配置についても見直しをしていきたいと考えている。現在、全体的な見直しをしているところである。今後、どこを避難所を開設するか、自主防災組織や住民自治組織に伺い、しっかりと地元と協議して決めていきたい。全ての住民自治組織を、危機管理課・災害対策本部が伺うことにしている。その中で最善の避難所を話し合いたい。危険水位については、非常に危険な場合は、登録をしていただかなくても届く「エリアメール」で避難指示・避難勧告をしており、「〇〇川が危険な水位に達したので避難してください。」という文章で案内している。専門用語を使うと、避難の身、指示がわかりにくいこともあると思うので、よりわかりやすいかたちで皆さんにお知らせする方法に見直しを検討している。高齢者への周知や、携帯もメールもない要支援者に避難をどう促すかについては、出前講座を行ったり、地域防災組織の皆さんと話をしていきたい。詳しく、避難しやすい情報を提供していきたいと考えている。</p>	
<p>川の水位について、ケーブルテレビで盛んに放送されていたが、本当に危険な水位かどうかかわからず、避難に関する放送も、早すぎるように感じた。詳しく連絡していただくことはできないか。川の近くへ行くと言われるが、水位がわからないから見に行く。危機管理課の人も見に来ていたが、放送してまわるということもなかった。また、小学校へ避難したが、避難者が少なかった。小・中学校には水もなく、毛布も足りない状況だった。</p>	<p>・市内全体に避難勧告・避難指示となると、行政だけの対応では追い付かず、日ごろから住民自治組織や自主防災組織と話をしていなければならないと感じた。避難所すべてを行政が開設して運営するのには限界がある。市では、注意報が出ると、職員が待機している。警報になると、増員して体制を整えている。災害対策本部が立ち上がると、全職員が対応している。大きな災害の時は、職員のほとんどが災害対応をしており、その時には、地域の皆さんと連携をとる必要がある。この度の反省点を踏まえ、避難所の開設運営について、地域の方と話をさせていただきながら、決めていきたい。避難情報は、高齢者や体の不自由な人には、雨や風が弱いうちに気象庁から早めに出る。避難勧告や避難指示というのは、難しい言い方であると思う。避難行動の誘導については、行動学を勉強されている専門家の研究結果も踏まえ、三次市としても取り組みたいと考えている。河川の中の木の伐採やポンプの件については、国土交通省に何度も要望しているが、引き続き要望していく。避難所の備蓄の問題ではご不自由をおかけした。自主防災組織には、一定のものをお届けして蓄えていただいた。全市を考えると当然不足している。しっかりと検討したい。避難所の開設運営、情報伝達、内水の排除については、大きな課題と捉えている。土砂災害やため池の問題についても、国土交通省と連携し対応を考えている。</p>	
<p>危機管理からメールが来るが、避難勧告等発令の意味が分からない人が多いと思う。平成30年7月豪雨以降、軽微なことでも避難所が開設されている。避難情報は、すべての人が受け取れるようにしてほしい。スマートフォンで伝わるのは若い人のみである。高齢者への伝達方法について考えてほしい。</p>	<p>・避難所のトイレについては学校の責任ではない。増やさなければならない。地域とも話をしていきたい。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月17日(水)

会場:三次コミュニティセンター

参加者:59人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>7月6日の夜中から7日の朝にかけて一番水位が上がったと思う。尾関山ポンプ場の水位があと1メートルくらいで越水する危険があったと聞くが本当か。国土交通省三次河川国道事務所のホームページには、灰塚ダムと土師ダムができたので、その効果で危なくなかったと載っている。ダムサイトの高さをみると、あと1～2メートルは蓄えられたと見受けられる。もう少し頑張れたのであれば、水位の調整が、もう少しできたのではないか。灰塚ダムは、2日後に放流しているように見受けられたが、なぜそのように早く放流したのか。もう1度雨が降ると危険だという判断で放流したのか。</p>	<p>ダムの水位については、10分間隔で本部へ連絡がある。水位を画面で見ている。今回の7月豪雨では、土師ダムと灰塚ダムの効果があったと思っている。ダムの放流については、今後の雨量が予測できない場合は、ダムから少しでも放流していなければ、満タンになった状態ですべてを放流しなければならなくなる。今回は、適切な判断だったと思う。大規模災害を想定した時に、外水からの越水が最悪の状態であると思う。命をいかに守るか。情報をいかにわかりやすく的確に、早い時期に伝達するかについて重要性を感じている。尾関山が1時間後にどうなるか、吉田・粟屋観測所や過去のデータを照合しながら、災害対策本部長として判断をしている。</p>	
<p>祝橋の件については、1～2メートルかさ上げするとも聞いている。どのようになっているのか。いつどのようにされるのか全く知らされていない。一番心配なのは、桜の木である。桜の木が水害で枝を流されている。三次町といえば桜である。川の土手があるから風情がある。これをどのように守っていくのか。</p>	<p>祝橋については、広島県の事業であるが、三次町側への説明がないことは確かである。20年前から図面化され、現在事業化へ進んでいる。広島県には、説明を求めており、広島県も三次町へ早く説明したいと言われている。現在、最終段階にきており、国土交通省と広島県が調整していると聞いている。その後、地元へ説明に来られるので、もうしばらくお待ちいただきたい。ただ、事業そのものは採択されており、国道54号側の建物の解体は、この事業であることは事実である。遠からず説明すべきであると要望していく。三次市としても、この事業を進める考えで、今回の水害では橋に支障はなかったが、今後被害が想定されるので、早い時期に祝橋を高くしながら、安全な橋とすべきと決定し、予算もついている。</p>	<p>【回答補足】 平成30年11月1日の三次地区自治会連合会役員会において、広島県および三次市が祝橋の計画について進捗状況の説明を行った。(土木課)</p>